

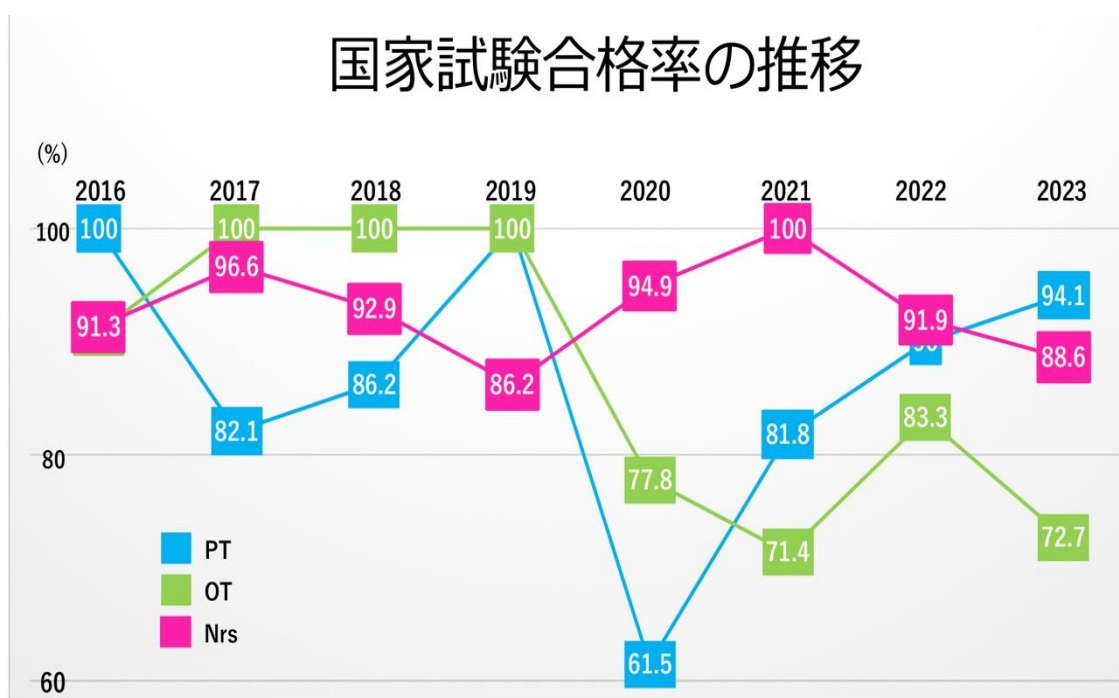
過去8年間の国家試験合格率の推移

看護学科（Nrs）の合格率を下のグラフで見ると、まるで4年に一度国試合格率が80%台に低下するような変化として認められますが、この変動は偶然の結果と考えられます。

客観的にみれば、変動があるものの比較的高い合格率をこれまで維持してきており、グラフには表現されていませんが、2020年度あたりから合格率のみならず合格者の実数も着実に増加しています。そのため、コロナ禍でもほとんど影響を受けることがなかったため、2021年では新卒生35名が全員合格となる誇らしい成果となりました。国家試験対策を小グループで行う学生同士の学びに加えて、教員が学生一人ずつの状況を把握してきたからであり、最後まで徹底的な受験対策をしていることが功を奏していると考えられます。

今後の課題としては、グラフに現れている変動幅をさらに小さくしていくと共に、本校国家試験合格率が全国平均を上回る一段高いレベルに維持し続けることと考えています。

そのため、早い学年から学習習慣を身につけ国家試験対策にスムーズに入っていけるように基礎力をつける学びを進めることを、全教員協力のもとで行なっております。



理学療法学科 (PT) は、コロナ禍が始まった2020年に合格率がこれまでの中で最も大きく低下してしまいました。これは、「試験直前に受験者間でコロナ感染が拡大すると受験そのものが危ぶまれますので、その危険性を減らすために従来のグループ学習から自己学習中心の受験対策に変更したことが望ましくない影響をもたらした」と考えられます。

効果的なコロナ対策が可能になるにつれ、この状況を速やかに改善し以前の高い合格率に回復させる取り組みを学科内で話し合い、新たな対応も加味しながら学生指導を着実に進めることになりました。具体的には、1) 以前のグループ学習指導体制に戻しながら、各教員の分担制をしっかりと堅持する、2) 一方、学生個人の自主性を尊重する柔軟な対応も取り入れる、3) 低学年で学力低下が顕著な学生に対しては教員間で情報共有し、担任が中心となってしっかりと基礎力アップを目指す、という3点を骨子とする対策に集約されます。その結果、2020年のどん底から順調な回復傾向を示しており、今年度は、かつての全員合格を果たしたレベルにほぼ近いところまで到達しています。

作業療法学科 (OT) は、コロナ禍前までは「3回連続で国家試験での全員合格」を果たした本校の実力学科でありました。しかしながら、コロナ禍が継続していたこの4年間は、PTと同様な理由から低迷が続き、しかもまだまだ回復基調に戻ってはいないところがとても残念でなりません。

国家試験不合格となった卒業生の中には、わずかに点数が足りずに不合格となった学生だけでなく、たまたま国家試験合格レベルにたどり着かない状態で受験をせざるを得なかった学生も含まれていました。これらの学生が抱える問題は様々ですが、私たち教員は、どのような状況にある学生に対しても日々の学びをしっかりと支援してきました。

また、卒業後に国家試験に再挑戦する方々にも、個々人の要望に応じて情報提供や適切な指導を続けています。これは「本校に入学した以上、合格のその日まで学生を支え続ける」という姿勢を貫いているからであり、結果として過年度卒業生（いわば再挑戦組）の国家試験合格率は極めて良好なレベルを維持しています。

勿論、現役生の国家試験合格率の回復という本来の目標達成のため、これまで以上に在校生の教育を熱心に進めており、その働きかけが在校生の成績向上として徐々に形になって現れ始めています。来年度の国家試験対策には十分な手応えが得られ、かつての合格率の全国上位校の復活につながるよう学科として取り組んでいます。

以上